



no.151

2010年(平成22年)

3月5日発行

すぎなみ イケてる池 / 善福寺池 下池

みどり探訪 / 浜田山のアカマツ

緑の歳時記 / ショカツサイ

「みどりのボランティア杉並」第6期会員募集

「杉並区みどりの基金」をご存知ですか?

園芸ワンポイント / 害虫の天敵昆虫を
上手に利用しましょう

すぎなみ イケてる池

善福寺池 下池 (都立善福寺公園)

武蔵野三湧水池の一つである善福寺池は善福寺公園にあり、広さは公園面積の約半分を占めています。池はバス通りを挟んで、北側が上池、南側が下池の二つに分かれています。面積約15,000㎡、周長約530m、水深約1mというのが下池のプロフィールです。水源は池の西側にある、井戸で汲み上げている地下水です。

下池の付近はかつては沼沢地でしたが、昭和18年に池として整備され公園デビューしました。バス通りから150mほど流れに沿って歩くと見えてくる下池は、沼沢地の面影を残し、上池と様相を全く異にしています。池の中心部はたくさんのアシやマコモで覆われ、岸から葉越しに見る対岸の景色は、特別な風情があります。

冬の間、樹形のシルエットで個性を主張していた木々は、春に向かって、まずヤナギがほんのりと芽吹き、コブシが花開き、水辺に向かって大きく枝を伸ばしているサクラやケヤキの季節を迎え、やがて緑陰、紅葉…と春夏秋冬それぞれの表情を見せてくれます。季節の移り変わりを知らせてくれる水鳥と共に、池畔はいつでも四季折々の自然を楽しませてくれます。





みどり探訪

浜田山の“アカマツ”

— 地域のシンボリック的存在 —

京 王井の頭線は浜田山駅のすぐ近く、手入れの行き届いた生け垣がすばらしい邸宅のお庭に、赤みがかった樹皮と緑の葉とのコントラストが美しい見事なアカマツ(赤松、マツ科)が3本そびえています。高さは15m以上もあるでしょうか。周囲には高い樹木や建物がなだけに、天をつくばかりの姿は、地域の人々からシンボリック的存在として親しまれています。

このアカマツは、それぞれ別々のお宅のもので、戦前あるいは戦後すぐに住まわれた当時は、10本以上もあったそうです。かつてこのあたりは田畑が広がり、アカマツたちはのどかな田園風景に溶け込んでいたことでしょう。しかし、時代の流れとともに周辺の住宅開発が進み、多くアカマツを維持・管理するのが難しくなってきました。そして、近隣の方々の理解と協力もあり、今日の姿になったそうです。

樹齢200年以上といわれるほどの巨木は、個人宅での維持・管理は非常に大変で、特に冬場は落ち葉が多く、近隣へ迷惑をかけないように努力されているそうです。それでも、行き交う人々の目を楽しませていることに励まされ、「後世まで残していければ…」と話して下さいました。

いまや、地域のシンボルツリーであるアカマツ。これからも、地域みんなで守りたいものですね。

緑の歳時記

ショカツサイ (諸葛菜)

アブラナ科 / 中国原産の1~2年生草本

高 さは20~60cmになり、葉の基部は茎をだき、茎の下の葉は羽状に切れ込み、互生します。花は淡紅紫で、直径3cmの芳香のある四弁花を4~5月につけます。果実は長さ10cmの長角果で、一度種がこぼれるとよく繁殖します。若葉は食べることができます。

名前のいわれは、諸葛孔明^{*1}が軍隊の逗留地で食用のため、必ずこの種をまいたといわれているからです。また、オオアラセイトウ、ハナダイコン、ムラサキハナナ、シキンサイとも呼ばれ、多くの名前を持っている帰化植物としてはナンバーワンでしょう。

最初に渡来したのは江戸時代で、『大和本草^{*2}』にすでに名前が見られます。昭和10年(1935年)に観賞用として再渡来し、戦後広く繁殖し、全国的に野生化しました。道端、堤防、線路の土手などで見ることができ、区内では京王井の頭線沿線の群落が見事です。

*1...3世紀前半、三国(魏・蜀・呉)時代に活躍した軍師

*2...1715年、貝原益軒があらわした漢方医学(植物・動物・鉱物)等の分類の書



みどりの窓

「みどりのボランティア杉並」第6期会員募集!

みどりのボランティア杉並は、地域緑化に関するボランティア活動を始めようとする方の、きっかけの場です。会員は生活者の視点を大切にしながら、仲間と一緒に区内のみどりを守り、増やし、育てる活動を行います。

■どんな活動をするの?

区が活動内容を示すだけでなく、ボランティアの方々同士で話し合い、活動内容を考えていただきます。これまでの活動内容は、樹木・草花の維持管理、樹名板設置、腐葉土づくり、みどりに関する印刷物の発行などです。

■誰と活動するの?

お住まいが比較的近い方々と活動していただけます。区内を南北に分けて2つのグループで活動していますので、同様の地域分けで先輩ボランティアと一緒に活動していただけます。

■いつ活動するの?

活動日は活動内容に合わせて決めていただけます。屋外での活動・話し合いは平日の昼間がほとんどですが、土曜日の活動もあり、都合に合わせて平日・休日どちらも活動が行われます。活動の頻度は月2~3回です。

活動までの流れは?

【1】まずは、ご応募下さい!

- ▼登録資格
- ▼区内在住・在勤・在学の方、または区内に活動場所を希望される方で、次に該当する方
- ▼(1)無報酬で活動できる方
- ▼(2)みどりに関心を持ちボランティア活動に理解と意欲のある方

▼登録期間

- ▼平成22年4月~24年3月
- ▼(原則は2年間。1回に限り更新できますので、最長4年登録できます)

▼申込方法

- ▼ハガキ・ファクスで、住所・氏名・連絡先・「みどりのボランティア杉並 参加希望」を記入し、みどり公園課みどりの計画係へ(「問い合わせ先」参照)

▼締切

平成22年3月15日(必着)



活動は気軽に、楽しく!

■どこで活動するの?

現在は、公園や学校、いこいの森(市民緑地)での活動が主です。お住まいの近くでの活動をしていただけます。

■「花咲かせ隊」や「公園育て組み」とは違うの?

違います。みどりのボランティア杉並は活動内容が多岐にわたり、活動場所が一つではないことが特徴です。

【2】3月末~4月上旬に、説明会・登録のご案内をお送りいたします

【3】4月に説明会を開催します。説明会終了後、登録用紙に記入いただき、登録完了(説明会に参加できない場合、資料をお送りいたします)

【4】4月下旬~5月上旬に活動がスタートします!

問い合わせ先

みどり公園課みどりの計画係
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
Tel:03-3312-2111(代表)
Fax:03-5307-0697

『杉並区みどりの基金』をご存知ですか?

この基金は、平成14年10月にできました。区内の緑化推進を願う、区民や事業者の皆様からいただいた貴重な寄付金を原資として、区内の貴重なみどりの保全や緑化推進に役立てたり、緑化活動をする人たちを応援するために使います。

みどりを守り、増やし、育てることは楽ではありません。「遠くのみどりはきれいでも、近くのみどりは落ち葉が迷惑」「代々受け継いだ樹を残したいけれど、維持にはお金がかかるし、

ご近所へ迷惑をかけてしまう。いっそ切り倒そうか?」樹を所有する人、周りに住む人、それぞれの想いがあります。寄付は、目の前の問題を解決するためのものではありません。

寄付をいただくこと、その寄付を通してたくさんの活動が生まれ、樹とともに人々の心が育つこと。寄付から生まれるみどりが、杉並で増えはじめています。

■詳細については区ホームページをご覧くださいか、みどり公園課みどりの計画係 まで、お問い合わせください。



「害虫の天敵昆虫を上手に利用しましょう」

5月の暖かいある日、梅の枝にルビー色の丸い虫がたくさんついているとの問い合わせがあり訪ねてみると、吸汁性害虫のタマカタカイガラムシがびっしりついて、その上に重なり合うように天敵のアカボシテントウの幼虫が蠢いていました。一方の枝には農薬がかけられて動かなくなっているものもありました。

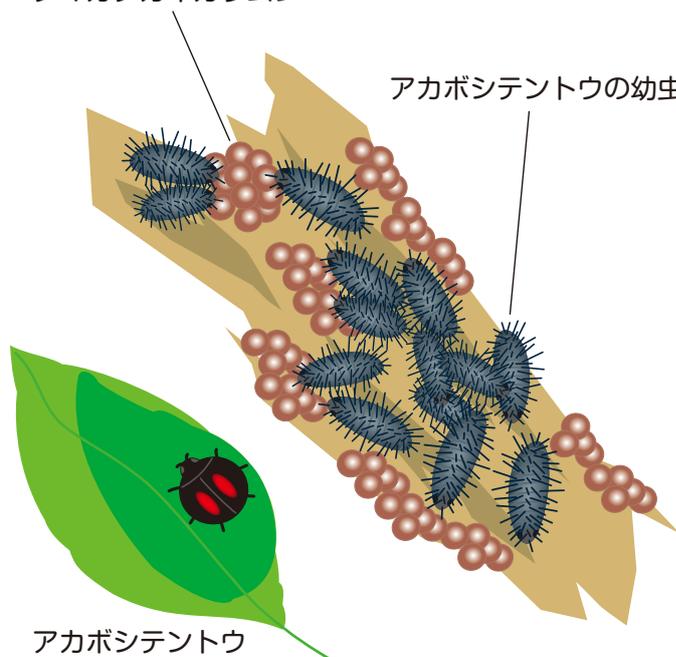
カイガラムシ類の駆除には化学合成農薬が効果的ですが、このような捕食性天敵にまかせるのも生物多様性の保持にはよい方法です。ただし、害虫がある程度多発してからやや遅れて天敵昆虫が多く見られるようになりますので、天敵だけでは被害を減らすことは難しいかもしれません。

モンシロチョウの幼虫アオムシがアブラナ科野菜に発生すると、アシナガバチが子育ての餌にアオムシを口で噛み砕きながら前足で器用に転がし、小さな団子にして飛び去っていきます。またウイルスの運び屋のアブラムシ類は、草木の新芽に沢山蠢いていたのに、いつの間にか抜け殻になっているのを見ることがあります。これはアブラムシ捕食性のテントウムシ類、クサカゲロウやヒラタアブの幼虫が捕食した残りカスなのです。

このように、生物農薬としての益虫を化学合成農薬の過度な使用で、減らさないようにしたいものですね。

タマカタカイガラムシ

アカボシテントウの幼虫



アカボシテントウ



カイガラムシ類の発生しやすい樹木



アジサイ、ウメ、カエデ類、キツタ、クチナシ、サザンカ、サンゴジュ、シャリンバイ、ツゲ、ツバキ、トベラ、ナンテンなど

編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 暑さ寒さも彼岸まで。みどりも豊かになり、心躍る季節になりました。(中)
- 善福寺川沿いを散歩すると、日増しに大きくなるサクラの花芽が目につくようになりました。そっと耳を傾ければ、春の足音が…。(羽)
- 久しぶりの取材参加で善福寺池へ。金色に光るアシの枯葉と個性的な樹形のシルエットの光景が印象に残りました。(松)
- 今冬は暖冬との予想でしたが、意外と寒い冬になりました。その中で、木々の芽は確実にふくらんでいます。(淳)
- 暖かくなると、街歩きが一層楽しくなります。黄色・白・桃色いろいろな花のグラデーションが、心をなごませてくれます。(山)

【訂正】前号(no.150)8面奥付中『編集・発行』欄の、「みどりの公園課」は「みどり公園課」、「阿佐ヶ谷南」は「阿佐谷南」、
 「http://www.city.suginami.tokyo.tokyo.jp/」は「http://www.city.suginami.tokyo.jp/」、です。お詫びして訂正いたします。